

令和四年六月吉日初版作成

神聖をスムーズに現わすソフト

高嶋善三郎

## 目次

- 我即神也の意味・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 宇宙子（生命）と神聖との関係・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 本心（神聖）の在り場所と現われる姿・・・・・・・・・・・・ 5
- 神聖をスムーズに現わすヒント・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 神と人間の関係を知り、私たちの天命を果たす・・・・・・・・ 6
- 真理を実践することにより、新たなる真理を得る・・・・・・・・ 8
- 愛する心は光を他に与える心・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 神聖の働きを常に感じる・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

### お願い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウェブサイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。

次の連絡先にお問い合わせ致します。

（携帯） 090-3346-6619

（メールアドレス） [zensan@peach.ocn.ne.jp](mailto:zensan@peach.ocn.ne.jp)

## 我即神也の意味

拙著『チャクラを活性化し、神聖を現わす呼吸法』の中で、「私は宇宙子」と唱えています。これはどういふ根拠でそう言えるのですかという質問がありました。これに対する回答を整理します。

私たちが宇宙子そのものになれるのは、私たちは我即神也の存在だからです。ヨガなどでは、そのことを I a m アイ・アムと表現されています。その意味は、何にでもなれるということです。

五井先生がご存命中、植芝盛平先生と会談をされたとき、最初に交わされた言葉が「私は宇宙です」「私も宇宙です」ですが、その意味することは、すべてと一体の存在であることを示しています。私たちは、肉体人間として波動の低い、分離された生活が長かったため、その感覚は、なかなか得られないのですが、元々はすべてと一体であり、それを意識すればすべてと一体という感覚を取り戻せる存在なのです。

また、私たち人間は、宇宙神の分身であり、宇宙子によってつながっ

ています。宇宙子は、物質的な感じを受けませんが、それは波動の最小単位であり、実質の最小単位であり生命の最小単位の存在であります。

これに関しては、拙著『宇宙の根源のあり方を理解し、意識を高める』において、詳しく言及しているところですが、要約しますと、大宇宙のすべての根源である宇宙神のみに相当する宇宙心から宇宙子が生まれ出で、大宇宙すべての存在に無限に放射され続けられています。宇宙心より生まれ出でた宇宙子はやがて宇宙核、中心核、宇宙子核となって、大宇宙の法則に従い、融合、分離の過程を何度も繰り返しつつ、悠久無限と続く、大宇宙の大調和と大進化、創造をなし続けています。人の生命は宇宙核からそのまま出ていますが、人間の原型は動物の原型ができる第八の働き場になって創られ、その原型に霊そのものである純粋な精神が入って霊止(ひと)は初めて動物の身体をまとい、肉体人間となっているのです。そして再び生命の根源である中心核、宇宙核に還元して、神の子人間、精神と物質、縦横十字交差した調和した人になることになっているのです。

そして人間には、常に新しい精神宇宙子が流れて来ており、それが物質宇宙子で構成されている、肉体に流れていき、これが円滑に行われれば、毎日精神的に気分もさわやかに、体調も快適に過ごせるのです。

しかし肉体人間の脳天（第七のチャクラ）が神界以外の階層即ち幽界から伝わってきている波動に蔽（おお）われてしまうと、新しい宇宙子が分霊魂に届かず、最初に入った自分の古い宇宙子だけのいわば蓄電池を使おうとするから、結論的には新陳代謝が行われずに、古い宇宙子のみとなり、肉体が時とともに老化し、働きが悪くなるのと同じように、神霊の心そのままの働きはできなくなってきていたのです。

そこで、チャクラを活性化して、神界から流れてきている宇宙子（光）を意識的に受け入れ、肉体人間の脳天（第七のチャクラ）を蔽っている波動を光に還元して、常に古い宇宙子と新しい宇宙子を入れ替えていく方法として、「私は宇宙子」という宣言をしているのです。

### 宇宙子（生命）と神聖との関係

宇宙子と神聖との関係をみてみましょう。

五井先生の詩集『純白』に「ゆるむ、宇宙子は生命そのものである」と解説されています。

●宇宙子は宇宙科学の原理によっても、電子や中間子や陽子という、つまり素粒子といわれる地球科学の現在最終の現れより、十七段階も遡っ

た、宇宙の根源の素粒子である。即ち靈妙妙不可思議の大宇宙の扉がはっきりに開かれた時（天地創造された時）最初に出現した素粒子で、この宇宙子群の縦横、十字交叉の大はたらきにより地球世界の今日があるのである。

●今も宇宙の心の中から生まれつづけて天に地に縦に横に、あらゆるものを生み育てるためにはたらいている。

●人類も動物も植物も鉱物もありとしあらゆるもの生きとし生けるものは皆宇宙子のはたらきの中で存在する。

●常に新たに宇宙心の中から放出されているので、古い宇宙子は、次々と役立っては消滅してゆくことになっている。

●波動の最小単位であり、実質の最小単位であり生命の最小単位である。最小組織はいつも七、そのはたらきは七ではじまって七の無限倍数までつづく。

●宇宙子は生命そのものであり、精神的な波動となっているものも、物質的な波動となっているものもあり、この精神と物質の調和によって、この地球世界も成り立っている。そのはたらきは一定の法則にのりながら自由自在千変万化している。

●人類の云々宗教も科学も宇宙子の実体とそのはたらきを知られば自

すから解明されてゆく。

●宇宙子は宇宙の極致数理の極致であり、大調和そのものである宇宙神から生まれているということ以外知られていない。

一方本心（神聖）は、五井先生著の『愛するということ』において、生命との関連について次のように解説されています。

生命と本心神聖とは、共に、宇宙神の心の中に生まれているが、生命は大自然の根源の働きそのものであり、本心（神聖）はその根源の働きをその智慧能力で、大調和達成のために生かききってゆく働きをしていると解説されています。

### 本心（神聖）の在り場所と現われる姿

また、神聖はどこにあるのでしょうか。同じく五井先生著の詩集『純白』の「こころ」から読み解いて見ましょう。

こころは天にありました  
いのちの中にありました  
光の中にありました

私の中にありました

こころは私でありました  
こころはいのちでありました  
こころは光でありました

人と人をまんなろく  
天と地（つち）をまっすぐに  
つなぐ光の波でした

この詩の「こころ」は本心神聖を意味し、鍵となる言葉を言い直してみると、次のように本心（神聖）の在り場所が見えてきます。  
天は神界の直霊を、いのちや光は宇宙子を、また私は、直霊と一つになった、肉体に降りて来ている分霊魂を意味しています。

そして本心（神聖）は私であり、いのちであり光であるとは、実は、私は直霊の一筋の光の存在であることに気付いた感激の言葉なのです。  
人と人をまんなろくとは、人々の間に愛と調和を現わした姿（自他一体）を、天と地をまっすぐにつなぐ光の波とは、私達に降りて来ている宇宙子の流れの姿（神我一体）を現わしています。

以上本心（神聖）の在り場所と現われの姿を理解できます。

私たちは、「生命の根源の働きをその智慧能力で、大調和達成のために生かすきつめてゆく働き」をする本心（神聖）について、少し近づいたような親近感を覚え、イメージしやすくなるかもしれません。

### 神聖をスムーズに現わすヒント

五井先生は、統一行について次のように解説されています。「統一が上手くなるのは、一言にいえば、素直に神様と想えるようになること、何事も神様の愛の現われであると思えるように思いを持ってゆくことなのである。

そして統一とは、人間の業想念、様々の想いを一つに統一（す）べることであり、このことは人間の業想念、様々の想いを自己の本心の中に統一しまとめてゆくことである。本心の中には、悪いもの、悪い心が、一切無い。完全円満であり、大智慧、大愛で満たされている。その中に一切の想念を統一してしまつたのであり、統一したことにより、そこから生まれてくる智慧能力によって開運もし、安心立命するものは、あたりまえのことである。そして雑念が起つてきたら、自分の想いで消そう

と思わないこと。すべての想念を追わないということ、消そうと力まなことがよい。どんな雑念も放っておけば必ず消え去ってゆく。力まないといいことは統一にとって最も必要な心構えである。また、どんな統一修行でも、自力だけの統一ということは絶対できない。必ずその人の守護の神霊の援助によるのである。援助というより、守護の神霊が統一させてくれるのである。だから統一にはまず守護の神霊の神聖に統一することをいわれており、加護を願うことが必要である。」「『続宗教問答』の問175)

### 神と人間の間を知らず、私たちの天命を果たす

ここで言われている「統一」とは、本心（神聖）に統一することだといわれており、神聖を現わすことと同義語であると考えられます。そこで、神聖を現わすという視点からそれをスムーズに行うヒントを整理してみましよう。

#### まず真理を理解する必要がある。

神という存在について、生命や光とどのような関係にあるのか。神我一

体とはどのような意識になることなのか、愛することとはどのようなことをいふのか、消えてゆく姿とは、どのようなことをさしているのか。守護の神霊はどのように加護してくださっているのか。私たちの天命を完つするとは、どのような状態になることなのか。これらを明確に理解することです。

それでは具体的に整理していきましょう。

五井先生がみ教えを解説される前までは、神は姿が見えない存在であり、一部の霊覚者の眼と言葉を通して理解していました。ところが神の姿が見えない肉体意識の人たちは、「万言象をなでる」のごとく、それが自己流に受け止めていたため、天使と悪魔といった二元対立的な理解しかできなかったのです。また因縁因果という法則についても、「様々な不幸が現れると、罰があたった。自分はどんな悪いことをしたのか。神様、私を救ってください。」といった想念行為に終始していました。そして人間は神の子であるにもかかわらず、過ちを犯しやすい罪の子（罪悪深重の凡夫）といった認識が植えつけられたのです。

これに対して、五井先生は、『神と人間』において宇宙神と私たち肉体人間との関係を、イラスト図を使って解説してくださり、肉体人間の天命について言及してくださいました。

人間は霊であり、肉体はその一つの現われであって、人間そのものではない。人間とは神の生命の法則を自由に操って、この現象の世界に、形の上の創造を遂げてゆくものであると識り、神我一体観、自他一体観を行動として表現してゆく存在であると教えてくださったのです。

そのみ教えのおかげにより、私たちは罪悪意識から解放され、のびのびとそれぞれの人生を探究できるようになりました。

さらに五井先生は宇宙天使の協力のもと、宇宙の根源のあり方や宇宙神と私たちの関係について宇宙子科学的に解明されました。私たちが宇宙を通じて宇宙神とつながっているという真実は、遠い存在であった宇宙神との関係がとても身近になりました。私たちは光の子であるという自覚へ至る、大きな足掛かりを得たのです。

これにより私たちの因縁因果の法則の捉え方が変わりました。

消えてゆく姿は、過去世で発した誤る想念（神から離れた想念、業想念）が、現れて消えてゆく時に起こるものであり、本心（神聖）に統一すると、自己の想いで消えつと力まなくとも思わなくとも、またすべての想念を追わなければ、自ずと消えてゆき、光り輝く本体が現われてゆへんことを学んだのです。

神我一体とは、常に本心（神聖）と一体になることですが、別の言葉で言えば、どのような業想念が現われようとも、常に本心（神聖）の方に想いを向けることを習慣化することです。

愛とは、自他一体、即ち「私はあなた、あなたは私」の関係をいい、元々一つであったものが分れてそれが再び一つになるときに起こるひびきと言われています。私たちは元々波動の高い神界に住んでいた分霊であり、この波動の低い、肉体によって分離された存在の世界に、神界の姿である自他一体の世界を現わすために、この地上界に降りてきて分霊として活躍していると言われています。

守護の神霊は、この肉体界に分霊として降りてきた私たちが天命を完うできるように、陰になり加護してくれています。現れようとしている業想念によって大難にならないよう、最小限の小難になるよう業想念を肩代わりして浄め、私たちが神聖に目覚めるよう、目覚めた人たちに引き合わせるよう導いてくれたり、本心（神聖）への統一がしやすいように支援してくれる存在なのです。従って常に守護の神霊に感謝することとは私たちの天命を完うしていくためには、不可欠といえます。

## 真理を実践することにより、新たな真理を得る

次に真理に基づき、行動・実践していくことについて。

真理が理解できれば、どのように行動していけばよいかが目ずとわかってきますが、特に留意するべきことは、消えゆく姿を前にしてどのように受けとめていくかということでしょう。

『人間と真実の生き方』において、「この世のなかのすべての苦悩は、人間の過去世から現在にいたる誤る想念がその運命と現われて消えてゆく時に起こる姿である。」という文句がありますが、この世のなかのすべての苦悩は、何故人間の過去世から現在にいたる誤る想念が運命と現われて消えてゆく時に起こるのでしょうか。この事由を理解することでも苦悩が大きく軽減されます。

結論からいいますと、消えてゆく姿は、肉体意識そのものの感情の業想念がその運命の形となって光により崩れていく姿であり、存在できなくなるという恐怖と不安の心を発しますが、その心を自分自身だと同一視してしまっているから、苦悩となるのです。自分の意識が業想念と同一くらい離れているかによって苦悩の深さは変わって来ます。



苦惱をできるだけ少なくするには、自分自身はもとも光の子そのものであるという意識を取り戻していく方法しかありません。

それを実現するためには、日頃から本心（神聖）に想いを向け続け、業想念を手放す以外にないのです。

### 愛は執着の想いを伴わず、愛の心の流れが、把われの想いで

神我一体観、自他一体観を行動として表現してゆく存在である私たちが常に直面する課題は、「神の愛をどのように現わしていくか」で、それを解決してゆくには、真の愛の心のあり方を理解することが必要です。

愛の心は、どのような姿で現われるのでしょうか。五井先生のお言葉『愛・平和・祈り』によると、それは、思いやりというふうにも現われるし、寛容・赦しというふうにも現われるというのです。

思いやりの心は、愛の心が細かい心遣いになって、相手の想いの波に同調しながら光を入れてゆく、このうちから相手の心の中に入ってゆく。寛容の方は、相手の心の波、想いの波を、こちら側に受け入れて、自己の心の中で昇華させていくことである。

この二つの心があれば、たいがいの人は、その人に好意を持ち、その人の愛の心を受け入れてくれます。

しかし、この地上界には神界の愛という心がそのまま現われていないと言われているのです。どのように現われているのか。

愛は執着の想いを伴わず、愛の心の流れが、把われの想いで、一つ一つ、一つ想いに止まってしまい、愛することが苦しみとなり、愛されることが重荷となり、神のみ心を離れた、神のみ心の中にはない、消えてゆく姿的な業想念波を巻き起こして、そこに不幸や悲劇が生まれているといわれるのです。

これは、普通、愛と簡単にいわれているものは、ほとんどが、業想念（因縁）と業想念との融合によって行われるか、業想念の自我欲望の満足を愛と思い違えているからである。つまり執着、執愛、自分の生命を縛り、他の生命を自我欲望のために縛りつけてしまっているからである。

別な言葉で云えば、純粋なる愛（神）の行為が、直接その光のままに行われる時には、肉体人間にとって、あまりにもその光が強すぎ、峻厳すぎるのを、適当に薄め弱めてこの地上界の肉体人間に適合するようにしてゆくところが情であるが、この地上肉体界は現在では、神の心と業想念の二つが入り交じって出来上がっている世界なので、情というこ

「これは、愛（神）の面と、業想念（執着）の面との、どちらにも働きかけてゆくのですね、うっかりすると、愛情だと思っている行為が、いつの間にか、業想念という執着の方に流れていつている場合があるからである。このようになってしまふのは、愛する、ということが、光を他に与えることである、という神の心、つまり原則を知らないから起こっている。また、愛されたいのに愛されないのは、自分が相手を愛さないからだということを、その人は頭で知っているかもしれないが、心ではわからないからであると五井先生は言われているのです。

以上から結論づけられることは、愛とは光を与え合うことであり、自分の業想念も相手の業想念も常に手放し、光に還元していくことが愛を現わす基本条件であるといえます。

苦しんでいる人の苦痛を和らげようと、感情移入して一緒に苦しむことでも、また相手の自我欲望を受け入れることでも、またモノさえあれば、相手は救われることでもないと言われているのです。

## 神聖の働きを常に感じる

手放すべき業想念のうち、自分の周りの人達から発せられているもの

は、無意識のうちに受け入れてしまい易いので注意することが大切です。

特にマスメディアからは、自己中心と二元対立の観点から見解が発せられています。それを無意識に受け入れてしまつと、その見解に振り回され、自分や他人を無意識のうちに責めたりすることになります。故その見解に振り回されるかという点、自分に向けて発せられた見解を受け入れてしまつと、その見解にエネルギーを与えたことになるのです。このようになるのは、肉体の心の働きであるが、そのもとは、すべて本心神聖からくるエネルギーであり、このエネルギーはあなたの選択と注目に従って意のままに動くことを忘れてしまっているからです。

ですから、自分の周りの見解に把われていると感じたら、それを手放せばよいこととなります。この手放す方法は、極めて簡単なのです。「他人の怒り、悲しみ、苦しみを手放します」と宣言等すれば、本心（神聖）は、それらの把われを光に還元してくれるのです。

以上神聖をスムーズに現わす主なヒントを整理してきましたが、そのほかにまだ種々のヒントがあることでしょう。それらを法友同士でシェアしていけば、お互いの神聖はますますスムーズに現わすことができ、神聖復活の印の偉力をさらに増すものとすることができるとでしょう。